勿凝学問 288

政治家の言葉
政治家の今昔比較考

2010 年 2 月 27 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

先日、職場の先輩、つまり慶應商学部の先生から、石橋湛山に関するメールが届く。それに対する僕の返事は･･･

From: Y Kenjoh
Sent: Tuesday, February 23, 2010 11:39 PM
Subject: Re: 石橋湛山

政経ジャーナリストとして湛山が学んできたことは実学そのもので、彼には、解決を強く意識した問題が、優先順位をもって、いつも目の前に並んでいて、それゆえに責任感のある学問ができていたように思えます。彼の「シロウトの経済学」の次の言葉には、経済学をどのようにして学ぶべきかの示唆が含まれていますね。

「学問は何でもそうだが、ただ本を読み、言語の上で理屈を知っただけでは、いわゆる畳の上の水練になり、実際の役には立たない。それでは学問そのものが死んでしまう。本を読んだら、そこに書いてあることを絶えず実際の問題に当てはめ、自分の思考力を訓練し、学問を実生活に応用する術を習得しなければならない。医者は医書を読んだだけでは、病人をなおせない。本を読むと共に、実習を要する。経済学も同様である。」

福澤諭吉の影響も大のようですね。今度、「福澤諭吉が湛山にいかに影響を与えたか」というテーマで、湛山著作集を読み直さないといけないですね（笑）。僕としては、ロイド・ジョージからの影響も興味深いです。彼の外交論などは、ロイド・ジョージそのものです。

それにしても、実学こそが重要と言う湛山が読んでいた本が、リカード、ミル、ケインズ等々。実学の重要性とこうした理論書を読むことのつながりを、今はなかなか理解してくれないところですけど、実学というのは、そういうものですよね。

それにしても、若いときからそうした自己訓練を積んできた人物を総理大臣にしてしまう当時の社会のスクリーニング機能も立派なものです。

昔の日本人、そして昔の日本という国、いずれも大したもんですね。
それに比べて・・・当今の日本は(T_T)トホホッです。

さて、今日の文章のタイトルは「政治家の言葉」にした。その理由は、次にある。

1930 年、濱口雄幸首相が東京駅で凶弾に倒れて入院したとき、湛山は、『東洋経済』誌上で、濱口氏が病床にありながらなお首相でいつづけることに「政権居座り」だとして首相退陣論を展開する。

その 26 年後の 1956 年 12 月 23 日、湛山は 72 歳で内閣総理大臣に指名される。しかしながら、首相在任期間 65 日で退陣した。湛山が「政治的良心に従う」と言って内閣総辞職を行ったのは、彼が肺炎で倒れ、精密検査の結果「静養には 2 カ月を要する」との診断が出たからである。26 年前、国会に出席できなかった濱口首相に退陣を迫った湛山が、自身の政治的良心に従っての退陣であった。首相退陣後も湛山は 1963 年まで議員を続け、没年は 1973 年、享年 88 歳。